

Broaden your horizons³² ~さあ、視野を広げて!~



こんにちは。メディセレのしゃっちょう、児島恵美子です。先日、ASPAC (アジア経済人会議) に参加するため、マニラに行ってきました。フィリピンは貧富の差が激しく、治安もあまりよくありませんが、セブン-イレブンやケンタッキー、キティーちゃんストアが出迎えてくれました。会議場は豪華で近代化されていましたが、雨が降るとネットがつかなくなるというアクシデント (電波と雨は関係するの?) にも負けず、何とか無事終了いたしました。会議で台湾の製薬会社社長と知り合いになり、「I'm a pharmacist」と言いましたら、「Great!」と言っていただきました。台湾では薬剤師になろうと思うと、大学に8年間行かなければいけないとのこと。フィリピンも薬学は7年制です。日本の6年制を大変だと思っていましたが、世界的にみると楽な方なのかしらと思直しました。

会議が終わってから、通常は入れないスモーキーマウンテン (マニラのスラム街) に行ってきました。前後に警察車両、ライフルを持った護衛官つきの厳戒体制です。予備知識なしの私は、「一体どんなところに連れて行かれるのだろうか」と不安になりました。スモーキーマウンテンは、急成長するマニラが吐きだす処理しきれないゴミの山に、腐敗したゴミから発生したガスにより常に煙が立ち込めていることからその名がつけました。そのゴミの山からお金になるものを探そうと人が集まり集落ができ、フィリピンの貧困の象徴となっています。現地に着くと長靴が支給され、一人に何かをあげると大混乱が起こるので、やめてくれと言う警察官の指導の下、集落を見せていただきました。漏電が起こるのでは? と心配になるほど、頭上には電気代を払わず、電気を引いて来ている電線の川。土ではなく、ゴミの道。ベッドスプリングが扉の家。政府が一度閉鎖したのですが、横の次の処理所で、またたくましく集落を築く人たち。

豪華な会場から車で30分、一変した町の様子に戸惑いました。しかし、そこに住む子どもたちの笑顔は眩しく、無限の可能性を秘めていました。子どもたちには輝く未来を与えたいと思いました。

追伸 現地はフィリピン語。子どもたちの言っていることがわからなかったのですが、水遊びをしている子どもたちが「ビショビショ～」と言っていました。擬音語は同じ? (笑)